



Azure

NetApp Console setup and administration

NetApp
February 11, 2026

目次

Azure	1
NetApp Consoleの Azure 資格情報と権限について学習します	1
初期の Azure 資格情報	1
マネージド ID 用の追加の Azure サブスクリプション	2
追加の Azure 資格情報	2
資格情報とマーケットプレースのサブスクリプション	3
FAQ	3
NetApp Consoleの Azure 資格情報とマーケットプレース サブスクリプションを管理する	4
概要	4
追加の Azure サブスクリプションをマネージド ID に関連付ける	4
NetApp Consoleに Azure 資格情報を追加する	5
既存の資格情報を管理する	13

Azure

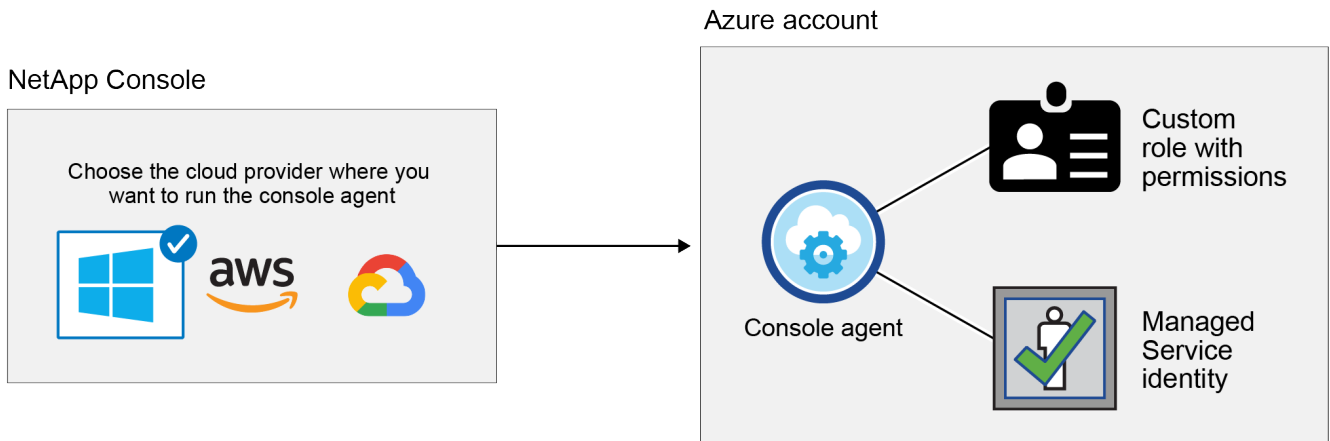
NetApp Consoleの Azure 資格情報と権限について学習します

NetApp ConsoleがAzure 資格情報を使用してユーザーに代わってアクションを実行する方法と、それらの資格情報がマーケットプレイスのサブスクリプションと関連付けられる方法について説明します。これらの詳細を理解しておく、1つ以上の Azure サブスクリプションの資格情報を管理するときに役立ちます。たとえば、コンソールに追加の Azure 資格情報を追加するタイミングを知りたい場合があります。

初期の Azure 資格情報

コンソールからコンソール エージェントを展開する場合は、コンソール エージェント仮想マシンを展開する権限を持つ Azure アカウントまたはサービス プリンシパルを使用する必要があります。必要な権限は、["Azure のエージェント展開ポリシー"](#)。

コンソールがAzureにコンソールエージェント仮想マシンを展開すると、["システム割り当てマネージドID"](#)仮想マシン上でカスタム ロールを作成し、それを仮想マシンに割り当てます。このロールは、その Azure サブスクリプション内のリソースとプロセスを管理するために必要な権限をコンソールに提供します。["コンソールが権限をどのように使用するかを確認します"](#)。



Cloud Volumes ONTAP用に新しいシステムを作成する場合、コンソールはデフォルトで次の Azure 資格情報を選択します。

Details & Credentials			
Managed Service Ide...	OCQM QA1	No subscription is associated	
Credential Name	Azure Subscription	Marketplace Subscription	Edit Credentials

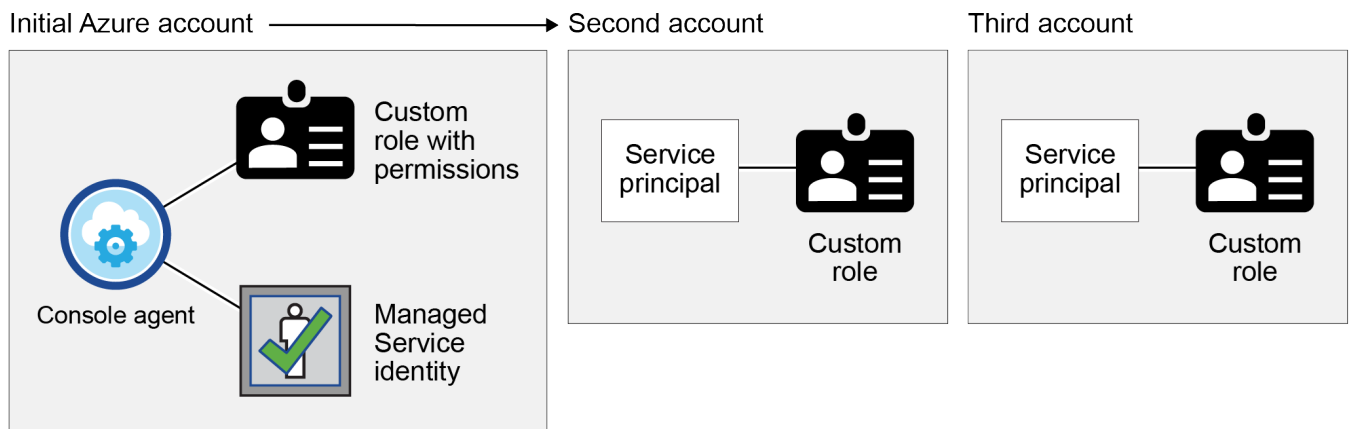
初期の Azure 資格情報を使用してすべてのCloud Volumes ONTAPシステムを展開することも、追加の資格情報を追加することもできます。

マネージド ID 用の追加の Azure サブスクリプション

コンソール エージェント VM に割り当てられたシステム割り当てマネージド ID は、コンソール エージェントを起動したサブスクリプションに関連付けられています。別の Azure サブスクリプションを選択する場合は、["マネージド ID をそれらのサブスクリプションに関連付ける"](#)。

追加の Azure 資格情報

コンソールで異なる Azure 資格情報を使用する場合は、必要な権限を付与する必要があります。["Microsoft Entra ID でサービス プリンシパルを作成して設定する"](#) Azure アカウントごとに。次の図は、それぞれサービス プリンシパルと、アクセス許可を提供するカスタム ロールが設定された 2 つの追加アカウントを示しています。



そうすると["コンソールにアカウント資格情報を追加する"](#)AD サービス プリンシパルに関する詳細を提供します。

たとえば、新しい Cloud Volumes ONTAP システムを作成するときに、資格情報を切り替えることができます。

The screenshot shows the 'Edit Account & Add Subscription' dialog box. It has a 'Credentials' section with a text input field. Below the input field, there is a dropdown menu showing the following options:

- cloud-manager-app | Application ID: 57c42424-88a0-480a.
- Managed Service Identity** (highlighted in blue)
- OCCM QA1 (Default)

資格情報とマーケットプレースのサブスクリプション

コンソール エージェントに追加する資格情報は、Azure Marketplace サブスクリプションに関連付ける必要があります。これにより、Cloud Volumes ONTAPの料金を時間単位 (PAYGO) またはNetAppデータ サービス、あるいは年間契約で支払うことができます。

["Azureサブスクリプションを関連付ける方法を学ぶ"](#)。

Azure 資格情報とマーケットプレース サブスクリプションについては、次の点に注意してください。

- Azure 資格情報のセットに関連付けることができるのは、1 つの Azure Marketplace サブスクリプションのみです。
- 既存のマーケットプレースサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えることができます

FAQ

次の質問は、資格情報とサブスクリプションに関連しています。

Cloud Volumes ONTAPシステムの **Azure Marketplace** サブスクリプションを変更できますか？

はい、できます。Azure 資格情報のセットに関連付けられている Azure Marketplace サブスクリプションを変更すると、既存および新しいすべてのCloud Volumes ONTAPシステムに新しいサブスクリプションに対して課金されます。

["Azureサブスクリプションを関連付ける方法を学ぶ"](#)。

それぞれ異なるマーケットプレース サブスクリプションを持つ複数の **Azure** 資格情報を追加できますか？

同じ Azure サブスクリプションに属するすべての Azure 資格情報は、同じ Azure Marketplace サブスクリプションに関連付けられます。

異なる Azure サブスクリプションに属する複数の Azure 資格情報がある場合、それらの資格情報は、同じ Azure Marketplace サブスクリプションまたは異なるマーケットプレース サブスクリプションに関連付けることができます。

既存の**Cloud Volumes ONTAP**システムを別の **Azure** サブスクリプションに移動できますか？

いいえ、Cloud Volumes ONTAPシステムに関連付けられている Azure リソースを別の Azure サブスクリプションに移動することはできません。

マーケットプレースの展開とオンプレミスの展開では資格情報はどのように機能しますか？

上記のセクションでは、コンソールからのコンソール エージェントの推奨展開方法について説明しています。Azure Marketplace から Azure にコンソール エージェントをデプロイし、独自の Linux ホストにコンソール エージェント ソフトウェアをインストールすることもできます。

Marketplace を使用する場合は、コンソール エージェント VM とシステム割り当てマネージド ID にカスタムロールを割り当てることでアクセス許可を付与することも、Microsoft Entra サービス プリンシパルを使用することもできます。

オンプレミス展開の場合、コンソール エージェントのマネージド ID を設定することはできませんが、サービス プリンシパルを使用してアクセス許可を付与することはできます。

権限の設定方法については、次のページを参照してください。

- 標準モード
 - ["Azure Marketplace のデプロイの権限を設定する"](#)
 - ["オンプレミス展開の権限を設定する"](#)
- 制限モード
 - ["制限モードの権限を設定する"](#)

NetApp Consoleの Azure 資格情報とマーケットプレイス サブスクリプションを管理する

Azure 資格情報を追加および管理して、NetApp ConsoleがAzure サブスクリプション内のクラウド リソースを展開および管理するために必要な権限を持つようにします。複数の Azure Marketplace サブスクリプションを管理する場合は、[資格情報] ページから各サブスクリプションを異なる Azure 資格情報に割り当てることができます。

概要

コンソールで追加の Azure サブスクリプションと資格情報を追加するには、2 つの方法があります。

1. 追加の Azure サブスクリプションを Azure マネージド ID に関連付けます。
2. 異なる Azure 資格情報を使用してCloud Volumes ONTAPをデプロイするには、サービス プリンシパルを使用して Azure 権限を付与し、その資格情報をコンソールに追加します。

追加の Azure サブスクリプションをマネージド ID に関連付ける

コンソールを使用すると、Cloud Volumes ONTAPをデプロイする Azure 資格情報と Azure サブスクリプションを選択できます。マネージドIDプロファイルに別のAzureサブスクリプションを選択することはできません。"[マネージドID](#)"それらのサブスクリプションで。

タスク概要

マネージドIDとは"[最初のAzureアカウント](#)"コンソールからコンソール エージェントを展開する場合。コンソール エージェントを展開すると、コンソールはコンソール エージェント仮想マシンにコンソール オペレーター ロールを割り当てます。

手順

1. Azure ポータルにログインします。
2. サブスクリプション サービスを開き、Cloud Volumes ONTAPをデプロイするサブスクリプションを選択します。
3. アクセス制御 (IAM) を選択します。
 - a. 追加 > ロールの割り当ての追加 を選択し、権限を追加します。
 - コンソールオペレーター ロールを選択します。



コンソール オペレータは、コンソール エージェント ポリシーで提供されるデフォルト名です。ロールに別の名前を選択した場合は、代わりにその名前を選択します。

- *仮想マシン*へのアクセスを割り当てます。
- コンソール エージェント仮想マシンが作成されたサブスクリプションを選択します。
- コンソール エージェント仮想マシンを選択します。
- *保存*を選択します。

4. 追加のサブスクリプションについては、これらの手順を繰り返します。

結果

新しいシステムを作成するときに、マネージド ID プロファイルに対して複数の Azure サブスクリプションから選択できるようになりました。

NetApp Consoleに Azure 資格情報を追加する

コンソールからコンソール エージェントを展開すると、コンソールは必要なアクセス許可を持つ仮想マシン上でシステム割り当てのマネージド ID を有効にします。Cloud Volumes ONTAPの新しいシステムを作成するときに、コンソールはデフォルトでこれらの Azure 資格情報を選択します。



既存のシステムにコンソール エージェント ソフトウェアを手動でインストールした場合、資格情報の初期セットは追加されません。["Azure の資格情報と権限について学習する"](#)。

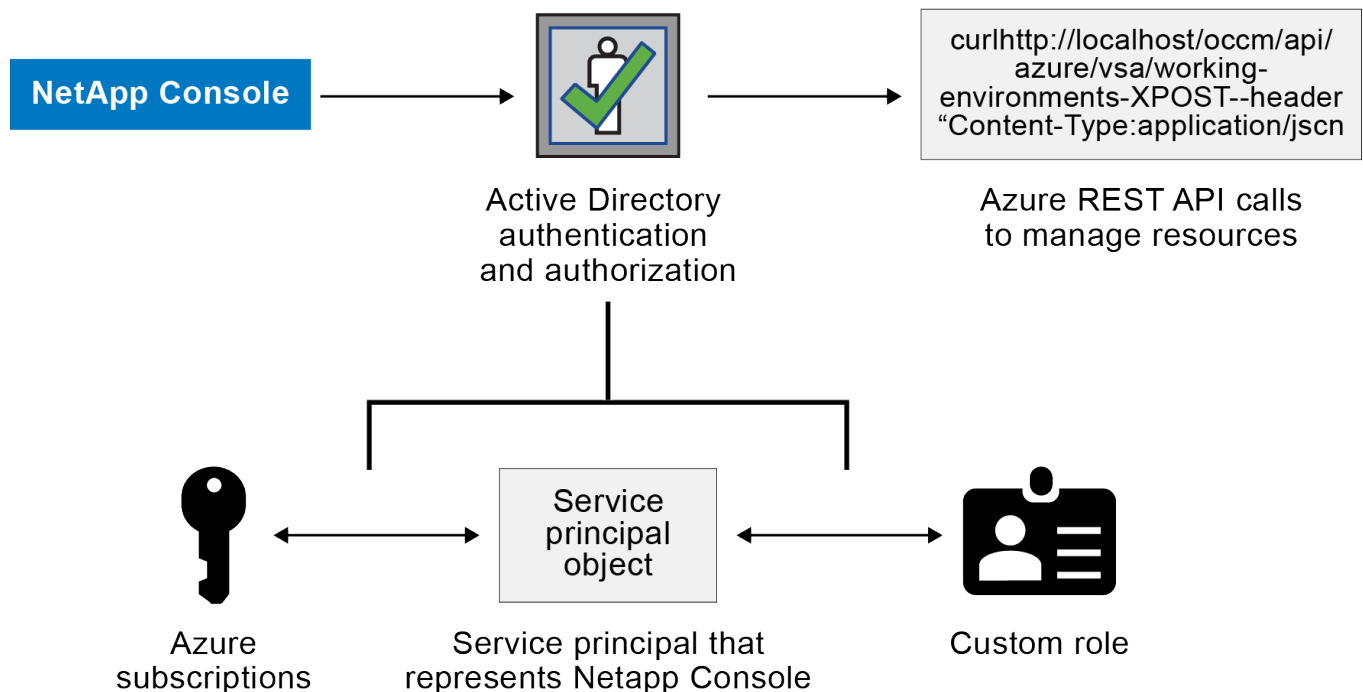
異なる Azure 資格情報を使用してCloud Volumes ONTAPをデプロイする場合は、Azure アカウントごとに Microsoft Entra ID でサービス プリンシパルを作成して設定し、必要な権限を付与する必要があります。その後、新しい資格情報をコンソールに追加できます。

サービス プリンシパルを使用して **Azure** 権限を付与する

コンソールには、Azure でアクションを実行するための権限が必要です。Microsoft Entra ID でサービス プリンシパルを作成して設定し、コンソールに必要な Azure 資格情報を取得することで、Azure アカウントに必要な権限を付与できます。

タスク概要

次の図は、コンソールが Azure で操作を実行するための権限を取得する方法を示しています。1 つ以上の Azure サブスクリプションに関連付けられたサービス プリンシパル オブジェクトは、Microsoft Entra ID のコンソールを表し、必要なアクセス許可を許可するカスタム ロールに割り当てられます。



手順

1. [Microsoft Entra アプリケーションを作成する](#)。
2. [\[アプリケーションをロールに割り当てる\]](#)。
3. [Windows Azure サービス管理 API 権限を追加する](#)。
4. [アプリケーションIDとディレクトリIDを取得する](#)。
5. [\[クライアントシークレットを作成する\]](#)。

Microsoft Entra アプリケーションを作成する

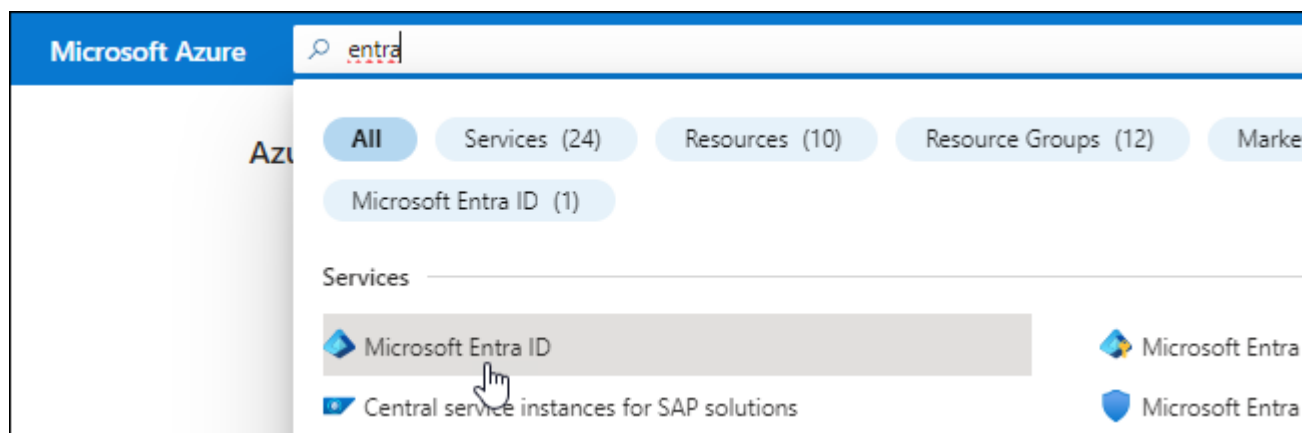
コンソールがロールベースのアクセス制御に使用できる Microsoft Entra アプリケーションとサービス プリンシパルを作成します。

手順

1. Azure で Active Directory アプリケーションを作成し、そのアプリケーションをロールに割り当てるためのアクセス許可があることを確認します。

詳細については、"[Microsoft Azure ドキュメント: 必要な権限](#)"

2. Azure ポータルから、**Microsoft Entra ID** サービスを開きます。



3. メニューで*アプリ登録*を選択します。

4. *新規登録*を選択します。

5. アプリケーションの詳細を指定します。

- 名前: アプリケーションの名前を入力します。
- アカウント タイプ: アカウント タイプを選択します (いずれのタイプもNetApp Consoleで使用できます)。
- リダイレクト **URI**: このフィールドは空白のままにすることができます。

6. *登録*を選択します。

AD アプリケーションとサービス プリンシパルを作成しました。

アプリケーションをロールに割り当てる

サービス プリンシパルを 1 つ以上の Azure サブスクリプションにバインドし、カスタムの「コンソール オペレーター」ロールを割り当てて、コンソールに Azure での権限を与える必要があります。

手順

1. カスタム ロールを作成します。

Azure ポータル、Azure PowerShell、Azure CLI、または REST API を使用して、Azure カスタム ロールを作成できます。次の手順は、Azure CLI を使用してロールを作成する方法を示しています。別の方法をご希望の場合は、"[Azureドキュメント](#)"

- の内容をコピーします"[コンソールエージェントのカスタムロール権限](#)"JSON ファイルに保存します。
- 割り当て可能なスコープに Azure サブスクリプション ID を追加して、JSON ファイルを変更します。

ユーザーがCloud Volumes ONTAPシステムを作成する各 Azure サブスクリプションの ID を追加する必要があります。

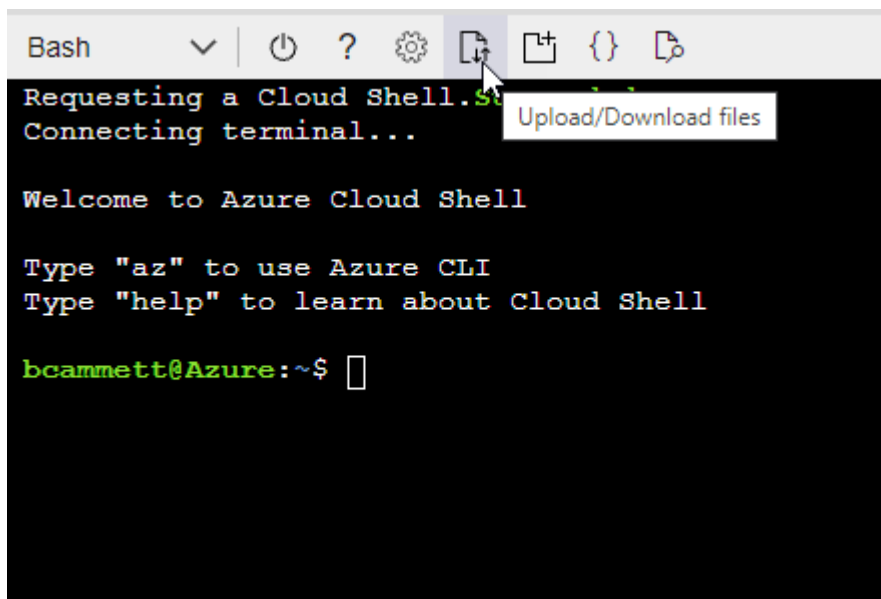
例

```
"AssignableScopes": [  
  "/subscriptions/d333af45-0d07-4154-943d-c25fbzzzzzzz",  
  "/subscriptions/54b91999-b3e6-4599-908e-416e0zzzzzzz",  
  "/subscriptions/398e471c-3b42-4ae7-9b59-ce5bbzzzzzzz"  
]
```

c. JSON ファイルを使用して、Azure でカスタム ロールを作成します。

次の手順では、Azure Cloud Shell で Bash を使用してロールを作成する方法について説明します。

- 始める "Azure クラウド シェル" Bash 環境を選択します。
- JSON ファイルをアップロードします。



- Azure CLI を使用してカスタム ロールを作成します。

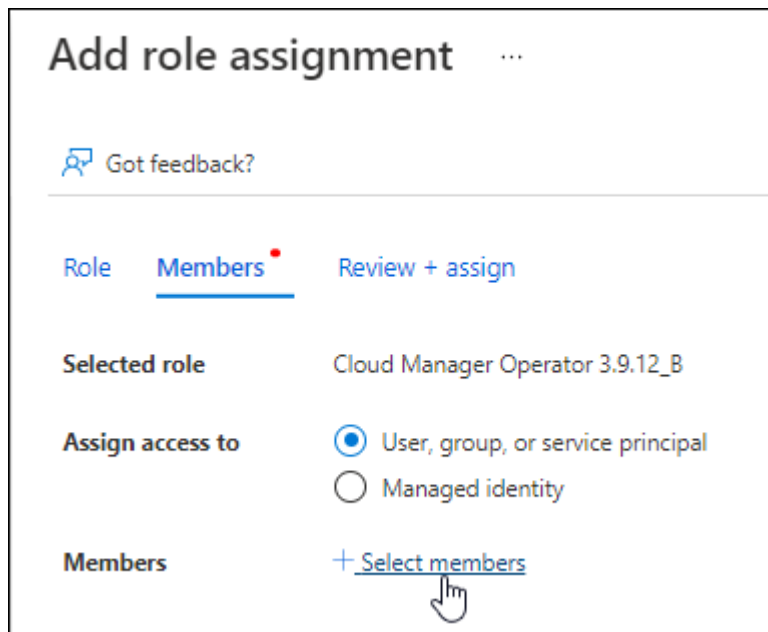
```
az role definition create --role-definition agent_Policy.json
```

これで、コンソール エージェント仮想マシンに割り当てることができる、コンソール オペレーターと呼ばれるカスタム ロールが作成されます。

2. アプリケーションをロールに割り当てます。

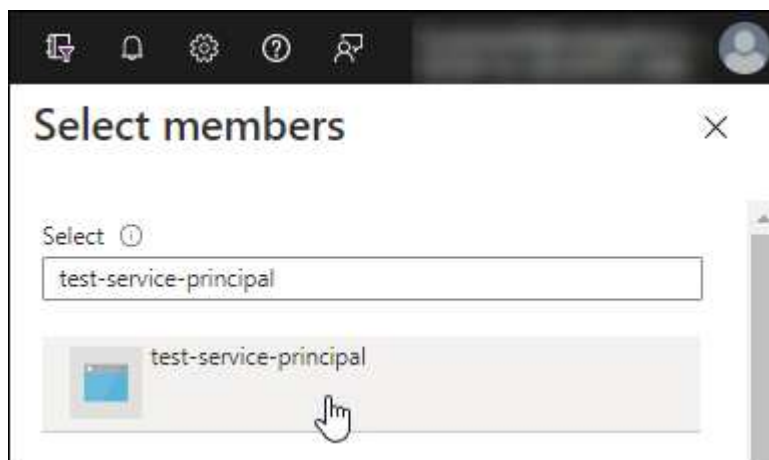
- a. Azure ポータルから、サブスクリプション サービスを開きます。
- b. サブスクリプションを選択します。
- c. アクセス制御 (IAM) > 追加 > ロール割り当ての追加 を選択します。
- d. *役割*タブで、*コンソールオペレーター*役割を選択し、*次へ*を選択します。
- e. *メンバー*タブで、次の手順を実行します。

- *ユーザー、グループ、またはサービス プリンシパル*を選択したままにします。
- *メンバーを選択*を選択します。



- アプリケーションの名前を検索します。

次に例を示します。



- アプリケーションを選択し、[選択] を選択します。
 - *次へ*を選択します。
- f. *レビュー + 割り当て*を選択します。

これで、サービス プリンシパルに、コンソール エージェントをデプロイするために必要な Azure アクセス許可が付与されました。

複数の Azure サブスクリプションから Cloud Volumes ONTAP をデプロイする場合は、サービス プリンシパルを各サブスクリプションにバインドする必要があります。NetApp Consoleでは、Cloud Volumes ONTAP をデプロイするときに使用するサブスクリプションを選択できます。

Windows Azure サービス管理 API 権限を追加する

サービス プリンシパルに「Windows Azure サービス管理 API」権限を割り当てる必要があります。

手順

1. **Microsoft Entra ID** サービスで、アプリの登録 を選択し、アプリケーションを選択します。
2. **API 権限 > 権限の追加** を選択します。
3. **Microsoft API** の下で、**Azure Service Management** を選択します。













Request API permissions

Select an API

Microsoft APIs APIs my organization uses My APIs

Commonly used Microsoft APIs

Microsoft Graph
Take advantage of the tremendous amount of data in Office 365, Enterprise Mobility + Security, and Windows 10. Access Azure AD, Excel, Intune, Outlook/Exchange, OneDrive, OneNote, SharePoint, Planner, and more through a single endpoint.

 Azure Batch Schedule large-scale parallel and HPC applications in the cloud	 Azure Data Catalog Programmatic access to Data Catalog resources to register, annotate and search data assets	 Azure Data Explorer Perform ad-hoc queries on terabytes of data to build near real-time and complex analytics solutions
 Azure Data Lake Access to storage and compute for big data analytic scenarios	 Azure DevOps Integrate with Azure DevOps and Azure DevOps server	 Azure Import/Export Programmatic control of import/export jobs
 Azure Key Vault Manage your key vaults as well as the keys, secrets, and certificates within your Key Vaults	 Azure Rights Management Services Allow validated users to read and write protected content	 Azure Service Management Programmatic access to much of the functionality available through the Azure portal
 Azure Storage Secure, massively scalable object and data lake storage for unstructured and semi-structured data	 Customer Insights Create profile and interaction models for your products	 Data Export Service for Microsoft Dynamics 365 Export data from Microsoft Dynamics CRM organization to an external destination

4. 組織ユーザーとして **Azure** サービス管理にアクセスする を選択し、権限の追加 を選択します。

Request API permissions

[← All APIs](#)



Azure Service Management

<https://management.azure.com/> [Docs](#)

What type of permissions does your application require?

Delegated permissions

Your application needs to access the API as the signed-in user.

Application permissions

Your application runs as a background service or daemon without a signed-in user.

Select permissions

[expand all](#)

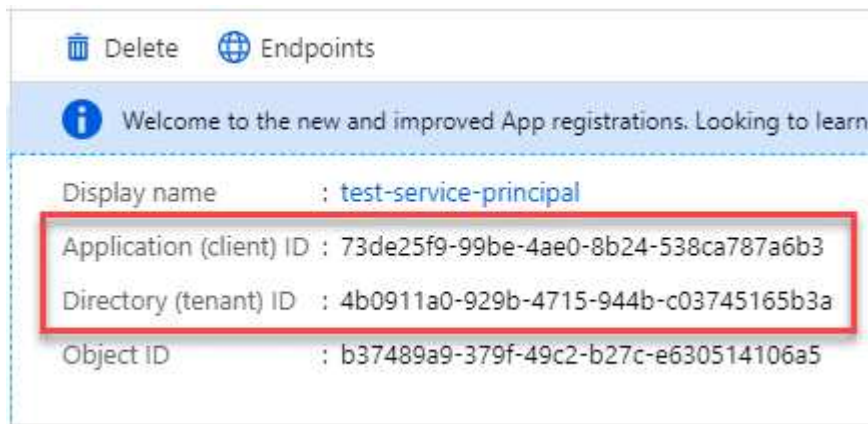
Type to search	
PERMISSION	ADMIN CONSENT REQUIRED
<input checked="" type="checkbox"/> user_impersonation Access Azure Service Management as organization users (preview) ⓘ	-

アプリケーションIDとディレクトリIDを取得する

Azure アカウントをコンソールに追加するときは、アプリケーションのアプリケーション (クライアント) ID とディレクトリ (テナント) ID を指定する必要があります。コンソールは ID を使用してプログラムでサインインします。

手順

1. **Microsoft Entra ID** サービスで、アプリの登録 を選択し、アプリケーションを選択します。
2. アプリケーション (クライアント) ID と ディレクトリ (テナント) ID をコピーします。



Azure アカウントをコンソールに追加するときは、アプリケーションのアプリケーション (クライアント) ID とディレクトリ (テナント) ID を指定する必要があります。コンソールは ID を使用してプログラムでサインインします。

クライアントシークレットを作成する

クライアント シークレットを作成し、その値をコンソールに提供して、Microsoft Entra ID による認証を行います。

手順

1. **Microsoft Entra ID** サービスを開きます。
2. *アプリ登録*を選択し、アプリケーションを選択します。
3. *証明書とシークレット > 新しいクライアント シークレット*を選択します。
4. シークレットの説明と期間を指定します。
5. *追加*を選択します。
6. クライアント シークレットの値をコピーします。

Client secrets

A secret string that the application uses to prove its identity when requesting a token. Also can be referred to as application password.

+ New client secret		
DESCRIPTION	EXPIRES	VALUE
test secret	8/16/2020	*sZ1jSe2By:D*-ZRov4NLfdAcY7:+0vA

Copy to clipboard

結果

これでサービス プリンシパルが設定され、アプリケーション (クライアント) ID、ディレクトリ (テナント) ID、およびクライアント シークレットの値がコピーされているはずです。Azure アカウントを追加するときに、コンソールにこの情報を入力する必要があります。

コンソールに資格情報を追加する

Azure アカウントに必要な権限を付与したら、そのアカウントの資格情報をコンソールに追加できます。この手順を完了すると、さまざまな Azure 資格情報を使用して Cloud Volumes ONTAP を起動できるようになります。

開始する前に

クラウド プロバイダーでこれらの資格情報を作成したばかりの場合は、使用できるようになるまでに数分かかることがあります。資格情報をコンソールに追加する前に、数分お待ちください。

開始する前に

コンソール設定を変更する前に、コンソール エージェントを作成する必要があります。["コンソールエージェントの作成方法を学ぶ"](#)。

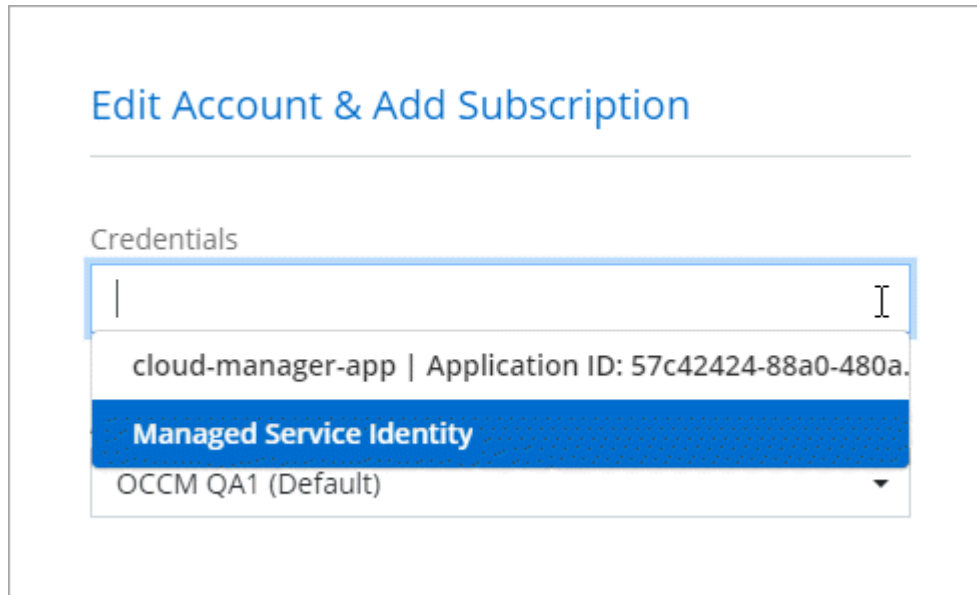
手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *資格情報の追加*を選択し、ウィザードの手順に従います。
 - a. 資格情報の場所: **Microsoft Azure > エージェント** を選択します。
 - b. 資格情報の定義: 必要な権限を付与する Microsoft Entra サービス プリンシパルに関する情報を入力します。
 - アプリケーション (クライアント) ID
 - ディレクトリ (テナント) ID

- クライアントシークレット
- c. マーケットプレイス サブスクリプション: 今すぐサブスクライブするか、既存のサブスクリプションを選択して、マーケットプレイス サブスクリプションをこれらの資格情報に関連付けます。
- d. 確認: 新しい資格情報の詳細を確認し、[追加] を選択します。

結果

詳細と資格情報ページから別の資格情報セットに切り替えることができます "[コンソールにシステムを追加するとき](#)"



既存の資格情報を管理する

Marketplace サブスクリプションを関連付けたり、資格情報を編集したり、削除したりすることで、コンソールに既に追加した Azure 資格情報を管理します。

Azure Marketplace サブスクリプションを資格情報に関連付ける

Azure 資格情報をコンソールに追加したら、Azure Marketplace サブスクリプションをそれらの資格情報に関連付けることができます。サブスクリプションを使用すると、従量課金制のCloud Volumes ONTAPシステムを作成し、NetAppデータ サービスにアクセスできます。

コンソールに資格情報を追加した後に、Azure Marketplace サブスクリプションを関連付けるシナリオは 2 つあります。

- 資格情報をコンソールに最初に追加したときに、サブスクリプションを関連付けませんでした。
- Azure 資格情報に関連付けられている Azure Marketplace サブスクリプションを変更します。

現在のマーケットプレイス サブスクリプションを置き換えると、既存および新しいCloud Volumes ONTAPシステム用に更新されます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。

2. *組織の資格情報*を選択します。
3. コンソール エージェントに関連付けられている資格情報のセットのアクション メニューを選択し、[サブスクリプションの構成] を選択します。

コンソール エージェントに関連付けられている資格情報を選択する必要があります。マーケットプレイス サブスクリプションを、NetApp Consoleに関連付けられている資格情報に関連付けることはできません。

4. 資格情報を既存のサブスクリプションに関連付けるには、ドロップダウン リストからサブスクリプションを選択し、[構成] を選択します。
5. 資格情報を新しいサブスクリプションに関連付けるには、[サブスクリプションの追加] > [続行] を選択し、Azure Marketplace の手順に従います。
 - a. プロンプトが表示されたら、Azure アカウントにログインします。
 - b. *購読*を選択します。
 - c. フォームに記入し、「購読」を選択します。
 - d. サブスクリプションプロセスが完了したら、「今すぐアカウントを構成」を選択します。

NetApp Consoleにリダイレクトされます。

- e. *サブスクリプションの割り当て*ページから:

- このサブスクリプションに関連付けるコンソール組織またはアカウントを選択します。
- 既存のサブスクリプションを置き換える フィールドで、1 つの組織またはアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

コンソールは、組織またはアカウント内のすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。資格情報のセットがサブスクリプションに関連付けられたことがない場合、この新しいサブスクリプションはそれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべての組織またはアカウントについては、これらの手順を繰り返して、サブスクリプションを手動で関連付ける必要があります。

- *保存*を選択します。

資格情報を編集する

コンソールで Azure 資格情報を編集します。たとえば、サービス プリンシパル アプリケーションに新しいシークレットが作成された場合は、クライアント シークレットを更新できます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *組織の資格情報*を選択します。
3. 資格情報セットのアクション メニューを選択し、[資格情報の編集] を選択します。
4. 必要な変更を加えて、[適用] を選択します。

資格情報を削除する

資格情報セットが不要になった場合は、削除できます。システムに関連付けられていない資格情報のみを削除できます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *組織の資格情報*を選択します。
3. *組織の資格情報*ページで、資格情報セットのアクション メニューを選択し、*資格情報の削除*を選択します。
4. *削除*を選択して確認します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。